

一般社団法人 プラズマ・核融合学会

プラズマ・核融合学会学会誌

2026年6月号 別冊

# 「Road to Fusion Energy 2027」

「フュージョンエネルギー実現に取り組む企業」

特集号

プラズマ・核融合学会は、1958年湯川秀樹博士を会長として生れた研究者組織「核融合懇談会」が母体となって、1983年学術団体「プラズマ・核融合学会」として発足し、1988年には社団法人となりました。現在は、プラズマ理工学及び核融合科学に携わる研究者・学生ばかりでなく、宇宙プラズマやプラズマ応用技術等に関心を持つ人々にも広く参加していただいています。

# プラズマ・核融合学会誌別冊 フュージョンエネルギー実現に取り組む企業特集 [Road to Fusion Energy2027] ご案内

フュージョンエネルギー関連企業の皆さま

プラズマ・核融合学会会長  
花田 磨砂也

近年、地球規模でのエネルギー課題や気候変動への対応が求められる中、持続可能かつ革新的なエネルギー源として「核融合発電」への期待が、かつてなく高まっています。とりわけ、世界各国で核融合に関する研究開発が加速する中、日本国内においても関連スタートアップ企業の設立が相次ぎ、産業としての裾野が急速に拡大しています。こうした状況を背景に、核融合分野における高度専門人材の育成と確保は喫緊の課題となっています。プラズマ物理、核融合工学、装置設計、計測技術に加え、材料開発、建設・インフラ、商流・調達、情報システム、品質管理など、幅広い分野において次世代人材の活躍が期待されています。

核融合関連事業に携わる企業は、装置や部材を製造するメーカーにとどまらず、商社、建設業者、エンジニアリング会社、IT企業、素材メーカー、物流企業等多岐にわたります。産業としての広がり多様性は年々高まっており、企業における核融合との関わり方も、直接的な研究開発のみならず、周辺技術の提供や産業基盤の構築など多様な形態へと拡大しています。こうした実態を正しく理解することは、学生や若手研究者にとって、将来のキャリア形成に大いに資するものと考えられます。

このような背景のもと、プラズマ・核融合学会では、初版を2026年10月号別冊で企画・発刊しました。第1弾が好評であったことや、さらに広範囲の分野の人材確保を目的に学会誌2026年6月号別冊『Road to Fusion Energy 2027』を企画・発刊することといたしました。本誌では、核融合分野に関わる企業の事業内容、技術的取り組み、参画領域、関連職種等を紹介し、読者の業界理解を深めるとともに、進路選択やキャリアパスの検討に資することを目指しています。

本誌は、プラズマ・核融合学会の学生会員をはじめ、全国の大学・大学院・高等専門学校などの教育機関へ配布を予定しており、核融合の未来を担う若い世代に対して、貴社の取り組みやビジョンを直接発信いただける貴重な機会となります。つきましては、本誌の趣旨にご賛同いただき、ぜひ貴社情報をご掲載賜りますようお願い申し上げます。核融合産業における貴社の高い技術力や社会的役割、将来展望を広く周知することで、優秀な人材との新たな接点創出につながれば幸いです。

## 発行概要

発行部数：2500部

発行日：2026年6月25日

広告申込締切日：2026年4月30日

広告原稿締切日：2026年5月10日

学会誌6月号とともに学会会員全員に送付するほか、第43回年会会場および学会主催の講演会や、学会が出席する会場でも配布いたします。

## 掲載原稿について

- ・A4サイズ1ページまたは2ページの掲載となります。カラーおよびモノクロをお選びいただけます。
- ・定型レイアウトとして、ページ上部に御社ロゴ・御社名を記載いただき、その下のスペースは自由にデザインいただけます。また、こちらで定型の書式で原稿を作成することも可能です。
- ・企業概要、事業内容、主力製品・技術・サービス、フュージョンエネルギーとのかかわり、若手社員や研究者の紹介、採用情報のほか、写真や図版の掲載も可能です。

## 掲載事例

### プラズマ・核融合学会誌

第101巻第11号別冊

#### フュージョンエネルギー実現に取り組む企業特集

「Road to Fusion Energy」

はじめに

|      |                     |    |
|------|---------------------|----|
| 企業情報 | アトックス               | 1  |
|      | アライドマテリアル           | 2  |
|      | EX-Fusion           | 3  |
|      | NTT 宇宙環境エネルギー研究所    | 4  |
|      | 化研                  | 5  |
|      | 京都フュージョニアリング        | 6  |
|      | 金属技研                | 7  |
|      | ジャパンスーパーコンダクタテクノロジー | 8  |
|      | 昌立工業                | 9  |
|      | Starlight Engine    | 10 |
|      | NAT                 | 11 |
|      | ニチアス                | 12 |
|      | 日揮グループ              | 13 |
|      | バルスパワー技術研究所         | 14 |
|      | ビームフォーフュージョン        | 15 |
|      | 日立製作所               | 16 |
|      | フジクラ                | 18 |
|      | 古河電気工業              | 19 |
|      | LINEA イノベーション       | 20 |

#### 未来を拓くフュージョン関連装置

～国内主要装置の現状と展望～

|  |                                |    |
|--|--------------------------------|----|
|  | 「核融合50周年記念 我が国における核融合の歴史と将来展望」 | 26 |
|  | プラズマ・核融合学会の紹介                  | 27 |

編集後記

### ATOX 株式会社アトックス ATOX. Co., Ltd.

人と技術の融合で豊かな未来を

#### ▶原子力分野での経験とトリチウム技術の活用を通じて核融合発電に貢献

当社は、わが国の原子力草創期から原子力施設のメンテナンスに携わり、現在では放射線管理、廃止措置、廃棄物処理、EPCなど幅広いサービスを展開する総合エンジニアリング企業へと成長してまいりました。近年はインフラの点検や医療といった分野への放射線技術の応用にも取り組んでいます。これまでの半世紀にわたる原子力・放射線分野での豊富な経験と実績、2021年4月に川崎重工株式会社から譲受した技術をもとに、高品質なエンジニアリングサービスを提供し、核融合発電の実現に向けて貢献してまいります。



#### ▶アトックスのトリチウム関連技術

当社は、以下の核融合におけるトリチウム取り扱いを中心とした技術を有しております。

【100Ciトリチウム取扱システム】核融合炉条件下でのトリチウムの挙動を調べるための実験装置です。最大100 Ci (3.7TBq) のトリチウムが使用可能であり、トリチウム実験チャンパー、トリチウムの貯蔵、供給、精製、取込体分離、取込等が可能な循環システムをグループボックス (GB) 内に構築しています。本システムは富山大学水素同位体機能研究センターに納入しました。

【トリチウム取扱設備】トリチウム実験設備が構築されたGB雰囲気内のトリチウム除去設備 (GPS) や実験装置からの排出ガスに含まれるトリチウムの除去設備 (ERS) 等を、日本原子力研究所 (当時) のトリチウムロセス研究棟 (TPL:1日最大使用数量=25万Ci (9.25PBq)) に納入しました。

【その他】JRR-2 ぶげんの廃止措置におけるトリチウム水除染・廃液回収の実績があります。



|              |   |
|--------------|---|
| 社名           | 株式会社アトックス   |
| 所在地          | 〒108-0014 東京都港区芝罘四丁目11番3号 芝罘フロントビル                            |
| URL          | <a href="https://www.atox.co.jp/">https://www.atox.co.jp/</a> |
| 代表者          | 代表取締役社長 矢口 敏和   |
| 設立年          | 1980年9月1日   |
| 本件に関するお問い合わせ | イノベーション戦略プロジェクト室  |
|              | Tel: 04-7145-3330(代表) mail: innv-contact@atox.co.jp           |

## 掲載料金表

| 4C/1C | スペース | 掲載料金   |          |          |
|-------|------|--------|----------|----------|
|       |      |        | 賛助会員     | 一般       |
| カラー   | 1ページ | 新規のご掲載 | ¥100,000 | ¥150,000 |
|       |      | リピーター  | ¥70,000  | ¥105,000 |
|       | 2ページ | 新規のご掲載 | ¥180,000 | ¥280,000 |
|       |      | リピーター  | ¥126,000 | ¥196,000 |
| モノクロ  | 1ページ | 新規のご掲載 | ¥50,000  | ¥70,000  |

上記金額には消費税は含まれていません

# 一般社団法人 プラズマ・核融合学会

The Japan Society of Plasma Science and Nuclear Fusion Research

- 〒464-0075 名古屋市千種区内山3-1-1桜通内山ビル4階
- TEL 052-735-3185 FAX 052-735-3485
- plasma@jspf.or.jp
- <https://www.jspf.or.jp/>

